

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2003年7月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

第7回日本太鼓チャリティコンサートを開催 ～聴覚障害者に太鼓の楽しみを～

財団法人日本太鼓連盟主催、財団法人全日本ろうあ連盟共催による第7回日本太鼓チャリティコンサートが5月22日(木)東京都港区草月ホールで行われました。

日本財団の助成事業である日本太鼓チャリティコンサートは今年で7回目となり、今回は、ろう者の社会的自立と社会的地位の向上及び社会福祉の増進を目指し、研鑽と交流を展開している財団法人全日本ろうあ連盟の活動を支援するために実施しました。

当日は、日本財団笹川理事長をはじめ、各国の在日大使、政・官・財界及び各分野で活躍しておられる300名以上の方々にご出席いただきました。

コンサートは、主催者から塩見理事長、共催者から黒崎副理事長の挨拶、続いて、当財団加盟の821団体から選ばれた全国各地の伝統太鼓・創作太鼓を代表する6チームによる演奏が行われました。

まず、鬼の衣装を身にまとった新潟県「分水太鼓」の演奏に始まり、聴覚障害者によって結成された山梨県「甲州ろうあ太鼓」の演奏へと続きました。この後にアメリカ公演を控えていましたが、日本の伝統芸能の一翼を担おうという真摯な姿勢と心のこもった演奏に対し、観客は両手を高く上げ手首を振るという手話による“拍手”で応えていました。長野県「ちんどん」は奏者が飛んだり跳ねたりと、動きのある演奏で観客を楽しませ、第5回日本太鼓ジュニアコンクールにおいて28都道府県で予選（出場273チーム3,579名）を勝ち抜いたチームと推薦チームを合わせた38団体のトップに輝いた長野県「信濃国松川響岳太鼓子供会」は優勝チームらしく表現力・芸術性溢れる演奏を披露しました。続いて、380余年の伝統を誇る石川県「加賀太鼓」の小気味のよい艶やかなバチさばき、ラストを飾った山形県「龍連山と和太鼓龍」による迫力ある大太鼓に、観客は圧

倒された様子でした。

各チームの演奏に対し、観客席から盛大な拍手が起り、あまり太鼓に馴染みのない外国人や聴覚障害者の方々からも、大変な好評を博しました。

なお、会場には、財団法人全日本ろうあ連盟の活動内容を紹介するパネルが展示され、多くの方が熱心に見入っていました。

出席された皆様のご協力により、総額558,300円の募金を、財団法人全日本ろうあ連盟に寄贈することができました。贈呈先からは、「責任を持って最大限に有効利用させていただきます。」との感謝の言葉をいただきました。

<出演団体>

- ・分水太鼓（新潟県）
- ・甲州ろうあ太鼓（山梨県）
- ・ちんどん（長野県）
- ・信濃国松川響岳太鼓子供会（長野県）
第5回日本太鼓ジュニアコンクール優勝団体
- ・加賀太鼓保存会（石川県）
- ・龍連山と和太鼓「龍」（山形県）



(フィナーレ)

アメリカの大学で日本太鼓公演 ～聴覚障害者のためのワークショップを実施～



(太鼓贈呈式)

当財団では、6月22日から7月2日までの2週間、甲州ろうあ太鼓（山梨県）、太鼓集団天邪鬼（東京都）、サンフランシスコ太鼓道場（米国）を、ニューヨーク州・国立ろう工科大学（ロチェスター工科大学内）とワシントンD.C.にあるろう者のための学校であるギャローデット大学に派遣いたしました。

この公演は、太鼓が日本の伝統芸能としてだけではなく、ろう者の方にとって音楽を楽しむ一つの手段として親しまれていることを、より多くの方々に知っていただきため実施したものです。

公演は、国立ろう工科大学で開催された「聴覚障害者教育に関する国際シンポジウム」期間中での3公演、ギャローデット大学並びに米州開発銀行での各1回の公演、合計5回の公演を行いました。また、国立ろう工科大学では、初心者のための太鼓ワークショップも併せて実施いたしました。

今回の公演では聴覚障害者の皆さんにゴム風船を持ってもらいました。カラフルなゴム風船を会場でお客様に配布し、膨らませた風船を演奏時に胸や腹に当ててもらいます。すると、笛や鉦の音には反応しないのに、太鼓の振動はビビン、ビビンと面白いように伝わってきます。もちろん、風船が無くとも太鼓の振動は全身に伝わりますが、風船によりその振動が増幅され、よりはっきりと太鼓の音、響きを楽しんでもらうことができました。

6月23日のワークショップでは、ろう者及び健聴者500名が会場を埋め尽くしました。塩見理事長から日本太鼓の紹介があった後、天邪鬼の渡辺洋一氏をリーダーとして実践指導を行いました。今まで日本太鼓を聞いたこともなければ、バチを握ったこともない人ばかり30名3組、計90名もの参加者に太鼓に触れてもらうことができました。最初は、少し恥ずかしそうに、中には自信ありげに太鼓の前に立つアメリカの人と子供たち。渡辺氏の分かりやすい説明と、メンバー一人一人の丁寧なアドバイスで、1時間半のワークショップ終了までに、全員で一緒に曲を演奏することが出来

ました。このワークショップの模様は、当日現地のテレビニュースで早速放送され、ろう者の子供たちが目を輝かせて太鼓を打つ姿が印象的だったと聞いております。

6月25日のシンポジウム開会式典では、日本財団笹川理事長が基調講演をされました。その後、笹川理事長より国立ろう工科大学へ太鼓2鼓が贈られました。これをきっかけに、ろう者の方々に太鼓を始めていただければ、という願いを込めて贈られたものです。

開会式典演奏後、25・26日の夜に同大学のパナラ劇場で行われた公演には、田中誠一氏を代表とするサンフランシスコ太鼓道場が加わりました。この2日間の入場者は合計1,800名。各公演共に満員で、観客は会場に響く太鼓の一打一打に圧倒されている様子でした。演奏ごとに両手を大きく振るという手話による拍手が送られ、演奏後には、会場のパナラ劇場開設以来一度もなかったスタンディングオベーションが起きました。この公演では、日本テレビのN.Y支局が取材に訪れ、7月5日のニュース番組「プラスワンサタデー」の特集中、「将来、太鼓がろう教育に大きな可能性を与える」として、大きく取り上げられました。この放送は大勢の方がご覧になったようで、大変な反響がありました。

6月30日にワシントンD.C.のギャローデット大学講堂で行われた公演でも、会場を満席にする700名以上の観客が集まり、甲州ろうあ太鼓、天邪鬼の気迫に満ちた演奏に大きな拍手が起きました。演奏終了後は、出口で甲州ろうあ太鼓が送り太鼓を披露しましたが、演奏をもっと聴きたいという観客が、メンバーを囲んでなかなか帰らないほどの人気ぶりでした。

今回は、2001年英国に派遣した知的障害者チームに続き、2回目となる障害者チームの海外派遣でしたが、どの会場でも、聴覚に障害を持つ人、持たない人に関わらず、多くの人から「太鼓の音を楽しませもらった」、「勇気づけられた」という感動の声が聞かれました。甲州ろうあ太鼓のメンバーは、アメリカの手話をすぐに覚え、現地のろう者と交流を深める姿が見受けられました。



(聴覚障害者参加のワークショップ)

アメリカ太鼓公演を終えて 太鼓集団天邪鬼代表 渡辺 洋一

私たち天邪鬼は「聴覚障害者と指導技術に関するシンポジウム」参加のため渡米しました。このニューヨーク・ロチェスター工科大学とワシントンD.C.ギャローデッド大学における太鼓公演とワークショップは、我々にとって大変有意義なものでした。日本の伝統文化である日本太鼓が一般の人だけでなく、障害を持った方々にどのように受け止められ、理解され、活用して貰えるか…。そういう意味でも大任を負ったツアーであったと思います。

ワークショップでは、聴覚に障害を持った子供から大人まで、参加者500名の中から、90名に（財）日本太鼓連盟の5級基本講座の内容を基に指導しました。受講者には楽譜と身振り、そして見本で示す太鼓の振動により、太鼓の打ち方を実践してもらいました。短時間の指導でしたが、3フレーズも打てることができ、初めて触れる太鼓に興奮し、心から楽しんでいる受講者の笑顔が心に残りました。

太鼓公演はサンフランシスコ太鼓道場、甲州ろうあ太鼓、そして私たち天邪鬼の3団体。公演後の客席はオールスタンディングとなり、心地よい疲れの中、無事に責任を果たすことが出来たという安堵感でいっぱいでした。この公演は、日本財団がグローバルに展開している聴覚障害者支援の一環として行われたものです。我々がその意義深いプロジェクトに直接携われたことに幸福を感じると共に、太鼓という楽器の新たな可能性を見出した思いです。

最後に一緒に舞台を努めてくれた甲州ろうあ太鼓とサンフランシスコ太鼓道場及び全てのスタッフの方々に心から感謝いたします。

アメリカ太鼓公演に参加して 甲州ろうあ太鼓代表 桜木 力

「世界中にいる障害者の仲間を作りたい」聞こえなくても太鼓は打てる事を、国際交流を通して心から分かり合いたいという大きな夢を昔から持ちつづけていました。その夢の第一歩を実現する事が出来たのです。

アメリカで初めて出演するという事で不安と期待を抱きながら演奏に挑みました。何回カリハーサルを繰り返していくうちに、次第に一体感を感じる事が出来るようになり自信も着きました。

演奏会場は、自分が打った太鼓の音と反射音との時間差が大きいのだろうか、という不安がありました。ろうあ太鼓の練習場は狭いため時間差が無いので分かりますが、広い会場だと、太鼓の種類の音が聞き分け

られるのか、反射音のタイムラグが大きいと、どちらに合わせれば良いのか分からなくなってしまいます。そのために小学校の体育館を借りて、音を合わせるための視線が視野にしっかりと入るようにポジションの再確認、他諸々の方法で音を捉える厳しい稽古を行ってきました。

今回、意外と好評だったのは風船でした。「風船に触ってみて下さい」と塩見理事長が会場のお客さんに英語で呼びかけてくださいました。笛、銅鑼、鉄筒、太鼓の順で音を出すと風船が音波を感じて反応するのですが、それぞれの楽器によって反応の仕方が違うのに驚いたようです。

公演終了後、私達がロビーで送り太鼓を打っていると、お客様がダンスをしたりして、人だかりが出来るほどの盛況ぶりでした。

私達が、聞こえなくてもやれば出来るという事を多くのろうあ者達に見ていただいたこと、そして天邪鬼の皆さん、サンフランシスコ太鼓道場の皆さんと同じ舞台に立てた事を大変嬉しく思います。このような事は通常ありえないですから。また、多くのことを学ばせていただき、今の自分の未熟さも痛感しました。

パナラ劇場を寄付したパナラ夫妻がお見えになり、80歳になる夫人がリズミカルに太鼓を打たれたのには驚きました。観客のろうあ者に「前列は健聴者ですか」と訊ねられて「全員ろうあ者です」と答えると「凄い」と驚いていました。アメリカでは演劇、コーラス等はありますが太鼓のような音楽グループはありません。ろうあ者は太鼓が楽しめ理解できるジャンルですから、是非とも太鼓のグループを結成して欲しいと思います。

アメリカ公演において、好評を得られましたが甘えることなく、益々気を引き締めていきたいと思っております。終わりに、この度の貴重な体験をさせていただきました（財）日本太鼓連盟の皆様方に深く感謝申し上げます。

<派遣メンバー>

<甲州ろうあ太鼓>

桜木力(代表)、小野智弘、井上直光、滝口寛光、猪岡哲也、保延浩貴、山口龍太、河西召祐、米山和子、杉山悠美

<太鼓集団 天邪鬼>

渡辺洋一(代表)、小川ひろみ、川名真由美、涌井晴美、馬場誠、影山伊作

<サンフランシスコ太鼓道場>

田中誠一(代表)、田中龍馬、前田レオ、木村ライアン、ロビンソン・ワズウォース、池田マーク、ジョン・ロシュロー、トーマス・トレイナー

<財団法人日本太鼓連盟>

塩見和子(理事長)、秋田稔(事業課長)、碇多香子(職員)

日本太鼓と学校教育—⑯

昨年の中学校に続き、本年4月より、高等学校の音楽時間においても日本太鼓をはじめとする和楽器教育が実施されています。支部関係者におかれましては、学校の授業やクラブ活動において太鼓指導に取り組まれていることと存じます。今回は、各学校において、秩父祭屋台囃子の指導を精力的に行っている高橋利雄氏（埼玉県・秩父祭屋台囃子保存会会長）より、寄稿いただきましたので紹介します。

—「テレッケにこだわって指導」— 秩父祭屋台囃子保存会 会長 高橋利雄

・楽しかった子供の頃

私の家は屋台収納庫の近くなので、祭りが近づいて「ならし」が始まると、太鼓の音が聞こえてくる。小さい頃からその練習風景を見に行っていたので、自然と打てるようになった。小学校の低学年から屋台に乗せてもらっていたので、祭りが来るのが待ち遠しかったし、大人に混じって打つのが楽しくて仕方がなかった。若い時は祭りの日は朝早くから屋台に乗り込んで、誰よりも多く打ちたかった。そんな昔が今は懐かしい。

・楽しさから責任者へ

私が上町太鼓長に推挙されたのが、41才の時でした。先代が亡くなり、町会で検討され、多くの先輩がいたなか、技術、実力等を考慮されたのか、抜擢していただいた。その頃から、楽しさから責任者へと気持ちを切り換えていった。ただ、屋台に乗って太鼓を叩いているだけではいけない。他町会、対秩父市、また保存会との関係等、気持ちだけでなく、実際に仕事が増えていくのが分かった。丁度この頃、全日本太鼓連盟が発足した。私も発起人の一人に加えさせていただき、以来、財團法人日本太鼓連盟にもお世話になっている。

・太鼓の指導に多忙

以前、秩父市観光協会では観光宣伝用として太鼓チームを編成した。そして、最多時は年間85回出演というのを記録している。TV出演も多かった。しかし、最近では指導が増えてきている。以前はプロ集団を中心に秩父の太鼓を指導してきた。わらび座、荒馬座、田楽座、ほうねん座等は宿泊し練習する者がいたり、こちらから泊を伴って指導に行くことも多かった。特にここ数年前より、学校が授業のなかで太鼓を取り入れている。音楽の選択の時間、総合的学習の時間等の授業の中で、正規に取り入れられている。県教育委員会の辞令交付を受け、非常勤講師となって指導しているのである。埼玉の川本中、城南中、高校では小鹿野高校が4年目に入る。ゼロから指導することは県立民俗文化センターの設立当時から行っている。全国で唯一と言う、この民俗文化センターは20年程前に建てられた。そして、埼玉の郷土芸能ということで「秩父屋台囃子講座」が開設され、私は当時から、その講座を担当。その時から、より効果のある指導方法を実践して

きた。このセンターの指導法が功を奏して、今では東京学芸大、大東文化大、立教大等でも取り入れられている。幸いに受講生から次年度もと言う要望が多く、定着してきているのがうれしい。

・「テレッケ」の難しさ、大切さ

私は対象者や、その指導の期間によって多少指導方法を変えている。学校教育等では年令、立場が同じなので、ゆっくり進めている。普通は2時間位が多い。先ず小胴の4連符「テレッケ」が一番難しいのである。秩父の人と言えども、打てるのは容易ではない。皆ここで挫折してしまう程である。小島美子先生も「テレッケ」は地元の人しか打てないという位である。鼓童や鬼太鼓座も打てない。しかし、最近では本物志向と言うか、本格的を好む人が多くなり、指導の要望が増えている。小胴が打てる様になれば始めたものであるが、短期間では無理なので、打てないままでも、大胴に入っていく。「ドコドン、ドコドン」という基本リズムから「大波、小波」を教える。次の主旋律の「ドコン、ドコン」を指導。入り方、出方をしっかりと覚えさせるのがコツである。それから「つなぎ」とか次の人に変わっていくところとか、終わりの太鼓等を教える。何と言っても秩父屋台囃子の魅力は、力と技を必要とし、スピードがあり、更に小胴に合わせ自分の好きに打てる即興性にある。私は秩父屋台囃子の責任者として正しい太鼓の打ち方を後世に伝えたいと願っているこの頃である。



(高橋氏と城南中学校の生徒)

理事会・評議員会・運営委員会を開催

～新たに評議員2名を選任～

<運営委員会>

第18回運営委員会が6月12日に開催され、

「北海道道南支部の開設」

「新潟県支部の開設」

が承認されました。

<評議員会>

第11回評議員会が6月16日に開催され、

「2002年度事業報告及び決算」

を報告し、承認されました。

<理事会>

第12回理事会が6月16日に開催され、次の事項
が承認されました。

「2002年度事業報告及び決算」

「評議員の選任」

任期満了に伴う第4期評議員の選任について諮
ったところ、全員異議無く可決、承認されました。
新任の評議員については次のとおりです。

・吉田博一氏 [三井住友銀リース(株)特別顧問]

・浜田麻記子氏 [(株)P.R.D会長]

「支部開設」

北海道道南支部、新潟県支部の開設が可決、承
認されました。なお、支部の詳細については、下
記のとおりです。

北海道道南・新潟県に支部が開設

このたび、新たに財団法人日本太鼓連盟の北海道道南支部、新潟県支部がそれぞれ開設いたしました。これ
で、36都道府県に39支部が設置されたことになります。

財団法人日本太鼓連盟北海道道南支部

太田 義高 支部長

(鯨神太鼓代表)



この度の「北海道道南支部」
設立にあたり一言ご挨拶申し
上げます。当支部は北海道14
支庁のうち胆振・日高・渡島・
檜山・後志の5支庁から構成
されておりますが、分かりや
すくご紹介しますと本州に向
かった太平洋と日本海の荒波に面する支部であります。
何分弱小支部ではありますが、北海道という北国の風
土を生かし、様々な活動を推進したいと考えてお
りますのでご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

<加盟団体 11チーム・会員数 190名>

はやぶさ太鼓、鯨神太鼓、橋本流室蘭和太鼓會、室蘭太鼓
衆風鼓、登別太鼓、幌別鉱山溪龍太鼓、厚真魂打太鼓、恵
山太鼓保存会、郷土芸能函館巴太鼓振興會、砂原権現太
鼓保存会

<事務局>

事務局長 柳引 秀明 (橋本流室蘭和太鼓會)

Tel. 0143-43-2333

財団法人日本太鼓連盟新潟県支部

小泉 光司 支部長

(新潟万代太鼓神流會会長)



平成15年度より皆様の仲間
に入れて頂いた新潟県支部で
ございます。十数年前より加入
勧奨を受けておりましたが、内部諸事情により延び延
びになっておりました。私も
県連立上げから関わっていま
したので、昨年の理事長再任を機に、何とか(財)日本
太鼓連盟への加盟を考えておりました。ことある毎に
会議で検討しておりましたが、この度大方の賛同を得
ることができ、加盟の運びにいたりました。諸先輩團
体におかれましては、新生新潟県支部に対し、今後共
ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げ、加盟のごあいさつ
といたします。

<加盟団体 9チーム・会員数 319名>

分水太鼓、越後見附太鼓、飛燕太鼓振興會、須弥山太鼓保
存会、越後親不知太鼓、寺泊太鼓、十日町大太鼓雪花会、
新崎樽ばやし連、新潟万代太鼓神龍会

<事務局>

事務局長 田村 功 Tel. 025-275-3942

静岡、長野で講習会、更新研修会を開催

～第17回日本太鼓全国講習会・第16回日本太鼓支部講習会～



(公認指導員更新研修会)

＜第17回日本太鼓全国講習会（静岡）＞

第17回日本太鼓全国講習会が6月28・29日の両日、静岡県支部が主管となり静岡県御殿場市国立中央青年の家にて行われました。講習会には地元静岡県をはじめ、全国23都道府県から315名が参加しました。この受講者数は、2002年2月に愛知県で開催されたときの339名に次ぐ多さでした。

開講式では当財団の小口副会長、主管団体である静岡県支部から和田支部長より挨拶がありました。

一流の講師により、2日間にわたって厳しい指導が行われ、受講生たちは、真剣な眼差しで太鼓に向かっていました。講習終了後には技術認定試験（学科、実技）が行われました。

○専門講座

| | |
|------------|-----------|
| 三ッ打太鼓講座 | 講師 島田 将嘉氏 |
| ゆふいん源流太鼓講座 | 講師 長谷川 義氏 |
| 大太鼓講座 | 講師 山内 強嗣氏 |

○基本講座

| | |
|--------|-----------------------|
| 総合指導 | 講師 古屋 邦夫氏 |
| 3級基本講座 | 講師 安江 信寿氏 |
| 4級基本講座 | 講師 若山 雷門氏 |
| 5級基本講座 | 講師 松枝 明美氏 講師 羽土 聰氏 |

技術認定員検定の結果は次の通りです。

| | | |
|------|-------|--------------|
| 1級検定 | 34名受検 | 31名合格（6名認定） |
| 2級検定 | 62名受検 | 46名合格（20名認定） |
| 3級検定 | 52名受検 | 51名認定 |
| 4級検定 | 42名受検 | 41名認定 |
| 5級検定 | 72名受検 | 72名認定 |

第2期公認指導員更新研修会を開催（静岡）

第2期公認指導員更新研修会が第17回日本太鼓全国講習会に併せて行われ、静岡県をはじめ全国から55名の公認指導員が参加しました。

参加されたことにより、公認指導員の皆さん、指導者の必要性や指導方法のあり方の重要性について再認識されました。また、全国から参加した仲間との、交流を深める姿も見受けられました。

○研修内容

| | |
|------------|----------------------------|
| 指導者としての心構え | （講師 小口 大八氏） |
| 基本打法の指導法 | （講師 古屋 邦夫氏） （講師 景山 道隆氏） |
| 太鼓界の現状と今後 | （講師 小野 翼常務理事） |
| 太鼓について | （講師 茂木 仁史氏） |

＜第16回日本太鼓支部講習会（長野）＞

第16回日本太鼓支部講習会が長野県支部主催により、5月31・6月1日の両日、長野県諏訪市文化センターにおいて行われました。

講座は3・4・5級基本講座が設けられ105名の受講生が参加しました。

○基本講座

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 総合指導 | 講師 古屋 邦夫氏 |
| 3級基本講座 | 講師 安江 信寿氏 |
| 4級基本講座 | 講師 三浦 一浩氏 |
| 5級基本講座 | 講師 松枝 明美氏 講師 渡辺 洋一氏 講師 富治林 浩氏 |

技術認定員検定の結果は次の通りです。

| | | |
|------|-------|-------|
| 3級検定 | 24名受検 | 24名認定 |
| 4級検定 | 23名受検 | 23名認定 |
| 5級検定 | 58名受検 | 58名認定 |

3,144名が資格を取得

2003年7月現在の公認指導員・技術認定員数は以下の通りです。

＜公認指導員＞

特別2名、1級24名、2級62名、3級114名、

総数202名

＜技術認定員＞

1級18名、2級70名、3級331名、4級561名、

5級1,962名 総数2,942名

第17回日本太鼓支部講習会（京都府）の案内

期 日：2003年9月20日（土）・21日（日） 会 場：亀岡市交流活動センター

講 座：3級・4級・5級（基本講座）、かつぎ桶太鼓講座（専門講座）

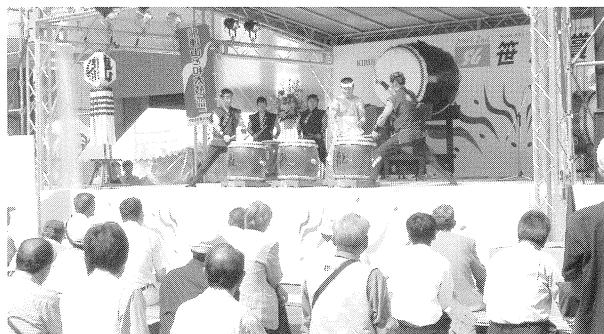
申込先：（財）日本太鼓連盟京都府支部 支部長 富治林 浩 Tel/Fax. 0774-88-5313

各方面で日本太鼓が演奏協力

第30回笹川賞競走

5月29日(木)に東京都平和島競艇場で開催された第30回笹川賞競走においてレースの合間に龍連山と和太鼓「龍」による演奏が行われました。

太鼓の音が鳴り出す前から、噂を聞きつけた観客がステージ前に集まり、いよいよ演奏が始まると、勇壮なバチさばきに大きな拍手が送られていました。なかには、演奏終了後、控室まで来られるファンもいたほどで、太鼓人気の高さを再認識させられました。



(龍連山と和太鼓「龍」)

ドイツ大使館太鼓公演

6月3日(火)にドイツ大使館において、大使主催のレセプションが開かれ、助六太鼓保存会による演奏が披露されました。

大使公邸が闇に包まれ、提灯の灯りが日本情緒をかもしだすなか、太鼓の音が響き渡りました。テラスに集まったドイツ経済界の人たちは食事の手を止め、その粋なバチさばきを熱心に見入っていました。



(助六太鼓保存会)

第5回日本太鼓全国障害者大会のお知らせ

期 日：2003年9月6日(土)
会 場：青山劇場（東京都渋谷区神宮前5-53-1 Tel. 03-3797-5678）
主 催：財団法人日本太鼓連盟
主 管：(財)日本太鼓連盟関東地区協議会、(財)日本太鼓連盟東京都支部、社会福祉法人富岳会
協 贊：日本財団
出演団体：太鼓俱楽部にこにこ(東京都)、甲州ろうあ太鼓(山梨県)、富岳太鼓障害者チーム、静岡県立静岡北養護学校 北龍太鼓、金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム、静岡ハンディキャップ太鼓の会、伊豆医療福祉センター どんづく(以上静岡県)、石川県ろう学校 風神太鼓(石川県)、恵那のまつり太鼓、ファミリーユニット童鼓(以上岐阜県)、古塔山びこ太鼓、すみれ太鼓、和太鼓ちんどん(以上長野県)、豊里学園 和太鼓 鼓粹(大阪府)、仁寿太鼓(島根県)、伊予三島いわくら太鼓ろうあ部会 鼓龍会(愛媛県)、糸口太鼓(大分県)、勤労障害者長崎打楽交流団 瑞宝太鼓(長崎県) 以上18団体

第7回日本太鼓全国フェスティバルのお知らせ

期 日：2003年10月12日(日)
会 場：石川厚生年金会館大ホール（石川県金沢市石引4-17-1 Tel. 076-222-0011）
主 催：財団法人日本太鼓連盟
2003ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(財)石川県芸術文化協会
主 管：(財)日本太鼓連盟石川県支部、(社)石川県太鼓連盟、北國新聞社
協 贊：日本財団
出演団体：橘太鼓響座(宮崎県)、尾張新次郎太鼓保存会(愛知県)、信濃国松川響岳太鼓子供会(長野県)、(出演順) 太鼓集団天邪鬼、八丈太鼓六人会(以上東京都)、秩父祭屋台囃子保存会(埼玉県)、ゆふいん源流太鼓(大分県)、石川県太鼓連盟合同チーム(石川県) 以上8団体

事務局だより

2004年度日本太鼓助成金交付事業申請は9月末までに

2004年度の日本太鼓助成金交付申請を2003年9月末日で締め切ります。特に、教職員日本太鼓研修会事業の開催を期待しております。希望団体は書類を整え、当財団宛に申請を行って下さい。

松本源之助氏が勲四等瑞宝章を受章

当財団の評議員であり、東京都支部長でもある松本源之助氏が、春の叙勲で勲四等瑞宝章を受章されました。この章は、同氏の70年にわたる江戸里神樂の活動が評価されたものです。この受章は、太鼓界にとっても今後の大きな励みとなります。心よりお祝い申し上げます。

日本財団の補助を受け、「富岳の園機能回復訓練棟」が完成

日本財団の補助を受け、「富岳の園機能回復訓練棟」（通称：富岳太鼓パレス）が今年4月に完成しました。小高い丘の上に立つ訓練棟は、一見宮殿のようにも見えるところから、富岳太鼓パレスと名付けられました。

富岳太鼓パレスは静かな自然に囲まれた環境にあり、その中で富岳会の療育活動の一つである日本太鼓に専念して取り組むことができます。以前は、メンバーの増加による練習場所の確保、近隣への騒音など様々な問題がありました。今回このパレスの完成により、思う存分太鼓に打ち込むことができるようになりました。完成したパレスは、鉄骨造りの平屋建て、延べ床面積は700平方メートルで、舞台と約400人が収容できるホールを備えています。床面は安全性を考慮し、適度な柔軟性とクッション性により衝撃を吸収するリノリウムを使用。また、舞台の背面は扉が開閉するようになっているのが特徴で、正面に富士山を臨むことができ、野外席も設けられています。

富岳会では、知的に障害を持たれた方の療育、高齢者のリハビリテーション、幼児の情操教育の場として活用することを目的とし、さらにその施設を単に同会施設利用者のためのものとせず地域一般に開放し、広く日本太鼓の教育的、福祉的文化活動の発信拠点となるよう努力していきたいとのことです。

なお、使用の申込につきましては、富岳の園にお問合せ下さい。

*お問合先 富岳の園 Tel. 0550-87-0167 Fax. 0550-87-0905



太鼓関係者必読の「入門 日本の太鼓」が出版

神を呼ぶ「呪具」として機能してきた民俗の太鼓。それを芸能の型にまで昇華させた伝統の太鼓。そして、近年飛躍的に進展する太鼓音楽。熱い、楽しい、奥深い。

知っているようで知らなかった太鼓の歴史。「日本の太鼓」の魅力を一から解説する入門書。「入門 日本の太鼓」が出版されましたのでお知らせいたします。

「入門 日本の太鼓 民俗、伝統そしてニューウェーブ」 発行：平凡社 720円（税別）
(著者) 茂木 仁史

国立劇場（日本芸術文化協会）に勤務。当財団西角井正大理事の後任として、芸能部で「日本の太鼓」などの民俗芸能の企画・制作・演出を手がける。

